

アイリスオーヤマ、 「仙台・青葉まつり」山鉾巡行に参加 約2年の制作期間を経た「五穀豊穡山鉾」の完成形を初披露



アイリスオーヤマ株式会社（本社：宮城県仙台市、代表取締役社長：大山 晃弘）は、2026年5月16日、17日の2日間にわたり開催された「第42回 仙台・青葉まつり」の山鉾巡行に、昨年につき2年連続で参加しました。当社は、2025年に白木の状態で披露した30年ぶり※1の新たな山鉾「五穀豊穡山鉾（ごこくほうじょうやまぼこ）※2」に塗装などの加工を施し、完成版として今年初めて披露しました。

「五穀豊穡山鉾」は、東北地域を支えてきた農業、特に稲作に対する深い想いと「豊作祈願」「五穀豊穡」への祈りを込めて命名しました。当社は、東日本大震災以降、復興支援の一環として精米事業に参入し、地域農業の再生と食の安定供給に取り組んでいます。今回制作した山鉾には、東北の稲作文化を象徴する「田おこし・代掻き（しろかき）・田植え・稲刈り・天日干し・脱穀」といった営みを、天水引（てんみずひき）にひとつの絵巻物としてあしらい、屋根の上には米俵を配することで、稲作の営みへの感謝と誇りを象徴的に表現しています。

2024年5月から構想を開始し、約2年の歳月をかけて完成しました。初参加となった2025年の「仙台・青葉まつり」では、白木の状態で山鉾巡行を行い、その後、コーポレートカラーである赤に近い朱色を基調とした塗装を施しました。塗りムラを防ぐため、「乾いては塗る」という工程を数十回にわたり丁寧に重ね、光沢のある艶やかな質感に仕上げています。また、飾り金物は伝統技法を受け継ぐ職人が、鋼板に一つひとつ手打ちで模様を刻み、絢爛豪華な金メッキを施しています。さらに、丁寧な裏打ち加工を行うことで、雀や稲穂が今にも飛び出してくるような、立体感あふれる意匠を実現しています。

また、水引は天水引と下水引（したみずひき）に分かれ、天水引は本場の西陣織の職人が製作し、下水引はたわわに実る稲穂と雀の姿を入れ込み、7色の糸を経糸（たていと）と緯糸（よこいと）で組み合わせることで、複雑な柄や美しいグラデーションを表現しています。

当社は今後も、地元仙台的な伝統行事への積極的な参加を通じて、地元企業として地域社会の活性化、文化の継承、そして持続可能なまちづくりに貢献していきます。

※1：仙台・青葉まつりにおいて。

※2：山鉾サイズは全長_6.35m、高さ_5.6m、幅_2.9m、重量_およそ 7t～8t。